

建部

キラリ

No.7

令和7年10月発行

編集・発行 建部地区まちづくり協議会 広報企画部会



秋の収穫

建部地区の高齢化状況

9月15日の敬老の日にちなみ、総務省が公表した日本の総人口に占める65歳以上の割合は29.4%で過去最高を更新しました。

建部地区でも高齢化が急速に進んでおり、中でも、北町、下野町は40%を超えており、上中町、瓦屋寺町、南町は30%台半ばとなっています。堺町、日吉町は北小学校周辺を中心に、新たな住宅が建ち、若い住民も増えており、20%台を保っています。

また、100歳以上の高齢者も年々増えており、東近江市は93人（最高齢者は107歳）で、内建部は5人（最高齢者は102歳）です。

建部地区は集落を中心とした旧村地域と新興地域とがあり、各地域の実情を考慮したまちづくりが必要となっています。

建部地区高齢化状況(令和7年9月1日現在)			全人口	65歳以上	高齢化率
1	建部北	北、浅前	169	82	48.5%
2	建部下野	下野、大塚	232	99	42.7%
3	建部上中	上中北、上中南	226	81	35.8%
4	建部瓦屋寺	瓦屋寺、山手、山の神、山の神北	331	118	35.6%
5	建部南	南	169	60	35.5%
6	建部堺	堺、東一、東二、相生	849	237	27.9%
7	建部日吉	日吉、竹鼻、日吉住宅、石地	1,036	241	23.3%
	合計		3,012	918	30.5%
	東近江市全体		110,906	30,839	27.8%

～みんなが楽しい！八日市北小をめざして～

豊かな心と学ぶ力をもち、共に生きる子どもの育成

4月に57名の1年生を迎えて、全校児童366名で令和7年度がスタートしました。本校の学校教育目標は、「豊かな心と学ぶ力をもち、共に生きる子どもの育成」です。笑顔があふれ、「やさしさ」いっぱい、「やる気」いっぱいの子もたちの姿をめざします。

学校スローガンとして「みんなが楽しい！八日市北小学校！」を掲げ、子どもたちと教職員はもちろん、保護者や地域の皆様も含めて、まさに「みんな」で、「みんな」にとっての価値のある「楽しさ」を追求していく…そんな「地域とともに歩む学校づくり」を進めています。

本校では「体験と関わり」を大切に考えています。例えば、5年生の「たんぼのこ」事業での田植えや稲刈り体験を通して、早苗の植え方、田んぼの泥の感触、稲穂を刈りとる鎌の使い方、稲穂を束でくくる方法等を実際に体験するからこそ学ぶことができ、このようにして収穫したお米だからこそ一粒でも大切にしようと感じることができるんだと考えています。学校の教科書だけでは学ぶことができない体験を重視し、自然体験学習（やまのこ・うみのこ・たんぼのこ・もりのこ学習・校区探検等）だけでなく、学校行事の取組や児童会活動（クラブ・委員会）等の「関わり活動」を重視しているのも、実際に「体験」して学ぶ…実際に「関わって」学ぶことを大切に考えているからです。

本校区は、東近江市の中心地にあり、官庁街や商店街、近江鉄道八日市駅を起点とした公共交通機関が整っており、またたんぼが広がる豊かな自然、さらには価値ある史跡も多く残る大変恵まれた校区です。今後も、地域の皆様のご理解とご支援をいただきながら、「地域を学び、地域を知り、地域を誇りに思う」子どもたちを育てていければと思っております。随時募集しております「北小支援ボランティア」の活動を通して、地域の多くの方々、学校に関わっていただき、学校と地域の風通しを良くするとともに、子どもたちがたくさんの方々との豊かな「関わり」を通して、健やかに育っていかれることを切に願っております。地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



5年生 たんぼのこ 田植え体験



6年生 修学旅行 職業体験



3年生 社会科 まち探検



4年生 もりのこ 森の探検

体験と関わり



1・2年生で学校探検をしたよ



児童会主催 たてわり班遊び

本校の子どもたちの様子や校長の思いを毎日発信しています。ぜひご覧ください。



笑顔いっぱいの建部幼稚園

建部幼稚園では、「考える子ども」をめざして、自然の中でいっぱい体を動かして遊び、自分で決める・自分で選ぶことを大切にすごしています。

今年は、地域の皆様のご尽力で新たな体験をすることができ、さらにパワーアップ。河辺イチゴの高木武さんにイチゴ狩りを、永井太嘉司さんの畑で民生委員の皆さんと一緒にジャガイモ・玉ねぎ・サツマイモ掘りを、建部梨の込山孫治郎さんには親子で梨狩りをさせていただき、収穫の喜びとともに、作物の実る様子を観察することができました。その経験から、自然の恵みをいただくことの大切さを学ぶことができた子どもたち。収穫した梅でジュースを作ったり、カレーを作ってお世話になった方を招待したりと新たな活動につながっています。

これからも、地域の自然や文化、ここで暮らす方々とつながり、充実した保育が行えるよう、職員一同力を合わせていきます。

また、お近くに来られた時には、気軽に園に遊びに来てください。



～地域の輪～



BOOK TIME in 建部

『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック／作 富山房

ある晩、マックスはオオカミの着ぐるみを着て大暴れ。お母さんに怒られて、寝室にほうりこまれます。すると部屋の中に、よきりによきりと木が生えだし、波が打ち寄せ、マックスは船に乗りこみます。ついたところは「かいじゅうたち」のいるところ！

ちょっぴりこわい「かいじゅう」が登場する絵本でも、誰かと一緒なら子どもはおおいに楽しめます。本を開いて、マックスと冒険に出かけてみませんか？



八日市図書館からの案内

県立琵琶湖博物館の島本多敬学芸員をはじめとする調査チームが「河辺いきものの森」にて、ドローン空撮によるレーザー測量により洪水時に集落や田畑を守る構造物の「猿尾」を再発見されました。

猿尾とは

江戸時代から明治時代にかけて築かれた堤防の一種で洪水の際、水流をさえぎり水勢を弱めて本堤防の決壊を防ぐ水利施設で、遊水地への導水や下流への放水の役目も果たしました。河辺いきものの森の「猿尾」は建部北村（建部北町）によって築かれ、今回の調査により旧来知られていた場所より新たに集落側にも築かれていました。高さは80センチ程度が残っていますが、もう少し高かったと思われます。川原石を積み上げた構造です。

伊勢湾台風による堤防越流

過去から建部北町には「森が洪水から村を守ってくれる」と伝わっていました。

昭和34年、中京圏を中心に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風により愛知川も増水し八千代橋上流の霞堤を超えて濁流が建部北町に迫りましたが猿尾と河辺いきものの森のおかげで集落内は道路が浸水する最小限の被害でおさまりました。森の木々と「猿尾」が防御機能を発揮しました。

ドローン空撮レーザー測量に期待

今回の「猿尾」再発見に用いられたドローン空撮レーザー測量は各分野において期待の技術です。特に破壊された古墳の確認や規模の確定や戦国時代の城の新たな構造の新発見など歴史的新事実の発見に期待されます。



河辺いきものの森の猿尾

～養生の知恵袋～ “秋の乾燥に注意！”

例年になく暑い夏もようやく過ぎ、「天高く馬肥ゆる秋（空が高く澄み渡り、馬も食欲が増してたくましくなる）」といわれるように、空気も澄み渡って食欲旺盛となる秋がやってきました。スポーツや読書、芸術に親しみやすい季節ですね。今回は、秋についてお話をします。

漢方では、秋は肺の働きが活発になる季節とされています（五行学説）。肺は、秋の澄み切った空気になじみやすく清潔を好み、デリケートで、乾燥を嫌い、潤いを好む臓器です。鼻を通じて外界とつながっているため、細菌やウイルスが侵入しやすい臓器でもあります。肺には、飲食を消化して得た栄養と、呼吸により取り入れた新鮮な空気が合体することで、気（生命のエネルギー）を作る働きがあります。肺が弱いと十分な気を得ることが出来ません。また、肺は皮膚や大腸と深いかわりがあり、肺の弱い人は皮膚や大腸も弱かったり、逆に皮膚や大腸の弱い人は肺も弱かったりします。現に、小児喘息とアトピー性皮膚炎の両方を患っている子どもがいたり、肺や皮膚の症状が大腸の環境を整えることにより、改善したりすることもあります。

秋に身体を悩ませる自然界の邪（発病の原因）は、燥邪（そうじゃ）、つまり乾燥です。鼻や口、皮膚の乾燥、髪の毛のパサつき、のどの痛み、乾いた咳などが現れやすく、潤いを好む肺も機能が低下して、コロナやインフルエンザなどウイルスに感染しやすくなります。それらを防ぐためには、身体に潤いを与えることが大切です。髪や皮膚は保湿を強化させ、室内は加湿器を使用し、マスクでのどの乾燥を防ぐなど、乾燥を防止することが大切です。おすすめの食材は、小松菜、アスパラガス、白きくらげ、松の実、白ごま、卵、牛乳、チーズ、百合根、梨、リンゴ、クコの実などです。

どうぞ、この秋もお元気にお過ごしください。

【養生庵sakai：込山】



お問い合わせ先
建部地区まちづくり協議会・建部コミュニティセンター
TEL・FAX:0748-22-0303 IP:5801-0303
Mail : tatebe-machikyo@e-omi.ne.jp

公式LINE
建部地区まちづくり協議会&コミセン
お得な情報やクーポン配信中！

